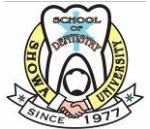




発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



吉木周作名誉教授が瑞宝中綬章 (教育研究功労)を受賞されました

歯科保存学講座歯科理工学部門 玉置 幸道

去る11月11日に、昭和大学歯学部・吉木周作名誉教授の秋の叙勲受章を祝う会を、吉木先生が指導担任をして下さいました1回生のコンパメンバーで行ないました。わたしは先生の受賞を知る1ヶ月ほど前に昭和大学病院外来で夫人と診察待ちで偶然にお会いして、検査待ちの吉木先生の元を訪ねてお話をさせていただきました。その折に吉木夫人より、コンパの方々と会食をとるの提案があり、それではとわたしが幹事を務めることになりました。さっそく、同期コンパの2名と連絡を取り、日時や場所での折衝を繰り返していた矢先に叙勲の情報をお聞きし、急遽、コンパ同窓会の名目を変更して受賞のお祝いの席とすることに決めました。



場所は先生の御自宅から比較的近い二子玉川を宴席に選びました。吉木先生が定年で大学を退職された折にも同じメンバーで集まりましたが、それからはや16年の時が流れていました。各自現況報告や昔話に花が咲き、和気あいあいといった雰囲気であったという間に予定の時間を越えてしまいました。

受賞は文化の日の11月3日に行われるのかと思っていたのですが、11月9日の金曜日に国立劇場で式典があり、その後皇居に移動して記念写真を撮影するという段取りだったようです。吉木先生は81歳になられましたが、まだまだお元気で趣味のゴルフにも、いまだお出かけになられるそうです。さすがにドライバーの飛距離が落ちたと言われていましたが、それでも芝生とはいえ1日約6kmを歩くわけですからその健脚ぶりは想像に難くありません。

コンパーとも50代の半ばを越えましたが、吉木先生を見習って、まだ老けるには早いとの思いを新たにしました。来年、また同じメンバーでの再会を誓い、皆で先生の益々のご健勝を祈念し散会しました。

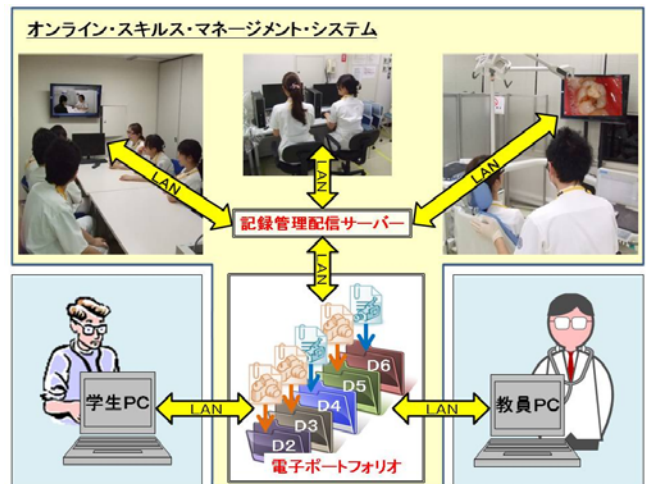


(左から)大淵(登倉)博子, 吉木夫人, 玉置, 吉木名誉教授, 徳岡敏一, 板長さん, 陳 明裕, 中村 篤, 石井(中沢)由子, 西堀(戸塚)明美

スキルスラボが整備されました

歯学教育研修センター長 長谷川 篤司

改修によるスキルスラボの面積、設備機器の増設に加え、学生がラボ内で行った実習の成果を有効利用できるように視聴覚装置を整備、充実させました。実習シミュレーター室には術者視点での術野をモニターリングして動画記録できる装置2基、口腔内での実習成果物(例えば窩洞形成など)を3D画像記録できる装置2基を設置し、多目的ルームには医療面接実習、患者ロボット実習などを動画記録できる装置6基を設置しました。これら視聴覚装置は学内LANを経由して記録管理配信サーバーと繋がることでオンライン・スキルス・マネージメントシステムとして機能し、学生は実習成果を電子ポートフォリオ上で随時、振り返ることができるようになります。



TOEIC-IP テストが実施されました

教育委員長 井上 美津子

平成24年12月8日(土)に、富士吉田校舎と同時に旗の台校舎(4号館500号室)においても TOEIC 団体受験(IP)テストが実施されました。今年度も、歯学部・薬学部(学部学生, 大学院生, 教員)から受験の申し込みがありました。このIPテストは一般の受験者が受ける公開テストと同じ基準で設定されているため、同等のスコアを獲得できますが、個人で受験するより受験料が半額以下ですむというものです。歯学部では、国際交流プログラムや D6の選択実習で海外を希望する学生には、受験を前提としています。今回、歯学部からは14名が申し込み、12名(学部学生3名、大学院生6名、教員3名)が受験しました。大学院生は高齢者歯科からの参加が多くみられました。

文科省大学間連携共同教育推進事業 に選定されました

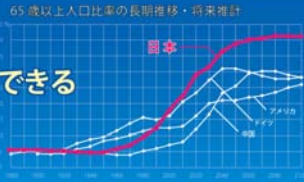
スペシャルニーズ口腔医学講座
歯学教育学部門

片岡 竜太

文部科学省 大学間連携共同教育推進事業 平成24年～28年度

昭和大学・北海道医療大学・岩手医科大学

ITを活用した 超高齢社会の到来に対応できる 歯科医師の養成



超高齢社会の到来により、歯科患者の
基礎疾患有病率・服薬率の増加

超高齢社会に必要とされる歯科医師像の把握

- ・全身と関連づけて口腔を診れる歯科医師
- ・基礎疾患を有する患者の歯科治療を安全に行える歯科医師

ITを活用した教育センター (3大学と歯科医師会)における取組内容

1. 能動型学習資源の改良
[e-learning・VPシステム・電子ポートフォリオ]
2. ITを活用した超高齢社会に対応した
歯学教育プログラムの開発
3. 教育目標の到達度の評価
4. ITを活用した歯学教育プログラムの改良

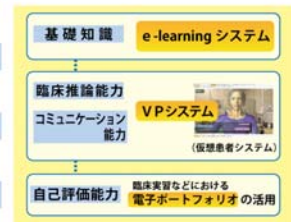


3大学と歯科医師会 TV会議を中心とした
ITを活用した教育センターの設立

教育目標とIT教材

教育目標

1. 全身に関連する基礎知識の習得
2. コミュニケーション・臨床推論能力の養成
3. 自己評価能力の養成



本学が幹事校となり「4大学交流」をおこなっている北海道医療大学、岩手医科大学と各大学と密接な関係を有する蒲田・大森・目黒区・荏原・品川歯科医師会、札幌・北海道歯科医師会、盛岡市・岩手県歯科医師会が連携して構築した「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」という5年間のプログラムが総応募数153のうちの採択49事業の1つとして選定されました。

超高齢社会の到来により、歯科を受診する患者の「基礎疾患の有病率・服薬率」が増加しています。本事業では「患者中心の安全な歯科医療を実践」するために、全身の状態を把握した上で、歯科医療を行う際に基礎疾患に留意できる歯科医師を養成します。高齢者には高頻度に口腔乾燥症(ドライマウス)がみられます。口腔内の痛みや味覚障害を合併しQOLを低下させるばかりではなく、誤嚥性肺炎の原因にもなります。服用薬剤や糖尿病などの全身疾患との関連も深く、口腔乾燥症の原因を理解し、治療を実践できる歯科医師を養成します。さらに現在歯科医療は診療所に来院する患者を中心に提供されていますが、超高齢社会の到来とともに、要介護高齢者が増加し、

在宅歯科医療(施設を含む)の充実が求められています。地域医療、多職種連携のチーム医療を理解し、専門的口腔ケアを実践できる歯科医師を育てます。

本取組を進めるために、11月22日に連携校と連携歯科医師会から50名の参加者を集め、第1回の「ITを活用する教育センター」のワークショップを開催しました。超高齢社会で求められる歯科医師像について教務課の方々も含めて討議し、現在連携校で使用しているIT教材(電子ポートフォリオ、e-learning、バーチャルペーシェント)を共有しました。懇親会場である入院棟17階タワーレストランにはPCのブースを設営し、実際にIT教材を使っていただきました。さらに今後IT教材を連携して作成していくために、口腔乾燥症、基礎疾患を有する患者の歯科診療、地域医療をテーマに3つのワーキンググループを結成しました。3月7日の第2回ワークショップでブラッシュアップした後に作成したIT教材をH25年度の本学3年生の教育に活用する予定です。

社会のニーズに応えることができる歯科医師を養成するために、連携大学と歯科医師会の力を合わせて、学生が能動的に学べる教材および教育プログラムを作っていきますので、今後ともよろしくご支援ご協力をお願いします。



大学院春季Ⅰ期入試が行われました

大学院運営委員長 佐藤 裕二

12月8日に大学院春季Ⅰ期入試が行われました。午前が語学試験、午後が専門科目試験です。12月20日に合格発表があり、一般選抜9名(うち昭和大5名)、社会人特別選抜5名(うちD6学生3名)の14名が合格しました。昨年度が、一般13名、社会人9名と非常に多かったのに比べて、やや少ないですが、一昨年の、一般5名、社会人0名と比べると、はるかに多いです。春季Ⅱ期入試が2月18日に行われます。願書締め切りは2月10日です。優秀な大学院志願者がさらに大勢来てくれることを願っています。

なお、来年度入学者からは、「専門医コース」が準備されます。専門医取得を希望する大学院生に十分な臨床実習と専門医取得の準備を行うことを可能にするために、臨床実習の充実を目的とし、大学院希望者の多様なニーズに応えます。入学後の4月に主科目・副科目選択時に申請を行います。詳細に関しては改めてアナウンスいたします。

昭和大学コンピテンシーワークショップが開催されました

スペシャルニーズ口腔医学講座
口腔リハビリテーション医学部門 高橋 浩二

平成24年11月23日(金)旗の台キャンパス4号館500号教室およびPBL教室にて、昭和大学のコンピテンシー作成のためのワークショップが開催されました。タスクは片桐学長、進行役は高木医学教育推進室長が務められ、学長よりWS開催の目的が説明された後、片岡歯学教育推進室長より歯学部のコンピテンシーの作成の経緯と成果および木内薬学教育推進室長より薬学部のコンピテンシーの作成の経緯について報告がありました。

その後、昭和大学のコンピテンシー作成のために3班に分かれ熱心に討議が進められました。歯学部からは宮崎学部長、井上教育委員長、片岡教育推進室長および私が出席し、コンピテンシー達成の評価については臨床実習終了後に施行されるiOSCAで行われ、不合格者には形成的評価が行われた後、再試験が実施され、昨年までの3回の実績では全員が合格していることを報告しました。また各学年のシラバスのSBOsには相当するコンピテンシーの中項目が示され、各学年でのコンピテンシーの到達度の評価は、知識については定期試験と進級試験にて行われ、技能については実習ならびに実習試験で行われていることを報告しました。また、各ユニットの定期試験結果のみならず、その学年における全体の到達度を評価するための進級試験の意義と重要性を説明しました。さらに、態度およびプロフェッショナリズムを評価するためにポートフォリオを活用していることを報告しました。

コンピテンシーの作成と活用において4学部で先行している歯学部のこれらの報告により討議は盛り上がり、今回のWSは昭和大学のコンピテンシーの作成のための貴重な試金石になったと思われました。

昭和大学教育者のためのワークショップ(ビギナーコース)に参加しました

歯科保存学講座 美容歯科学部門 玉岡 慶鐘

平成24年11月17~18日、神奈川県厚木市のアンリツ研修センターにて、各附属病院から選ばれた看護師、放射線技師、管理栄養士、柔道整復士、歯科医師の参加者47名により第4回昭和大学教育者のためのワークショップが開催されました。今回のワークショップは、「昭和大学の教育への関心を深め、望ましいカリキュラム立案能力を習得する」を目的としたビギナーコースのみで行われました。テーマは「医療倫理」、「チーム医療入門」、「疾病論入門」、「医療コミュニケーション」の4ユニットで、それぞれに一般目

標(GIO)、行動目標(SBOs)、学習方略、学習評価を作成し、討議と発表が行われました。

私の参加したグループは、保健医療学部看護学科2年生を対象にした「疾病論入門」で、看護を实践するうえでの疾病論についてのカリキュラム作成を討議しました。今回のワークショップを通して、学生のニーズを考えたカリキュラムを作成する重要性について認識させられました。2日間という短い期間でしたが、グループディスカッションまたは懇親会を通して多くの先生方と意見交換ができ、非常に有意義な時間を過ごす事が出来ました。最後に、片桐学長から参加者一人一人に修了書が手渡され、無事ワークショップを終えることが出来ました。



私立歯科大学協会第9回教務研修会に参加しました

高齢者歯科学講座 佐藤 裕二

11月29~30日の2日間にわたり行われた私立歯科大学第9回教務研修会に参加させていただきました。この研修会は、私立歯科大学・歯学部の歯学教育に対する理解と認識ならびに教務担当者の資質向上を図ることを目的として、隔年で行われています。本学からは、岩佐文則講師(歯科補綴学)と宮崎裕美さん(教務部)も参加しました。

29日には、協会会長の中原泉先生、早稲田大学前総長の白井克彦氏、文科省の合田哲雄氏、読売新聞の松本美奈氏の講演が有り、教育に関する現状認識ができました。松本氏が中心になってまとめられた「大学の實力2013」では、本学の退学率、ストレート卒業率なども掲載されており、おおいに刺激を受けました。大学が實力を付けるためには、組織力、危機意識、情報共有が重要だそうです。夕刻の懇親会では有意義な交流と情報交換ができました。

30日は、「魅力ある歯学教育のための取り組み—超高齢社会における歯学教育—」と題したシンポジウムの後、3班に分かれて情報交換を行いました。多くの学校で統合講義の問題点を抱えているようです。また、各大学とも臨床実習の充実に力を入れていることも理解できました。

2日間にわたる長丁場でしたが、刺激的でした。本学が勝ち残るためにいっそう貢献する所存です。

学生生活指導のための教育職員ガイダンスが開催されました

歯学部学生部長 上條 竜太郎



11月27日(火)午後6時30分から上條講堂にて、「第8回学生生活指導のための教育職員ガイダンス」が開催されました。本年度は北野台病院精神科 奥田弘美先生に、「メディカルサポートコーチングの紹介～医療現場での指導・コミュニケーションのヒント～」と題してご講演いただき、学生への指導や接し方の重要性を認識する有意義な機会となりました。

チュービンゲン便り

歯科補綴学講座 高場 雅之

私は、現在ドイツ連邦共和国南部にあるバーデン・ヴュルテンベルク州に属するチュービンゲン大学に留学しています。大学の設立は1477年で、ここではヘルマン・ヘッセなど多くの文学者や哲学者が学んだ歴史があります。人口約8万5000人のうち学生が約2万5000人で、街全体が大学といった感じです。

歯学部・歯科病院は、5階建ての診療棟と研究棟、講義棟があり、別の敷地にインプラントセンターと基礎実習室があります。私が所属している補綴科(主任:ハイナー・ウェーバー教授)には、インプラントセンター、バイオマテリアルのセクションが存在し、補綴治療、インプラント治療、研究と多くの指導を受け、また実際に診療を行っています(日本人に限りますが)。ドイツの歯学部は5年制で、補綴科の臨床実習では、担当歯科医師管理の下、4年後期に比較的単純なクラウン・ブリッジ、義歯を、5年前期になるとロングスパンブリッジやテレスコープクラウンなど全顎的な治療を学生自身が行っており日本との臨床実習の違いを感じています。

今回の留学の機会を頂いた馬場教授、昭和大学歯学部にご感謝するとともに、私が不在の間、ご支援頂いた方々に御礼申し上げます。また、留学で得た経験、知識を生かし、今後の飛躍に繋げていけたらと考えています。



9月に馬場教授はじめ補綴学講座の先生方がチュービンゲン大学を訪問されました。中央が補綴科のウェーバー教授、その右が馬場教授、右端が筆者です。

昭和歯学会が開催されました

昭和歯学会常任理事(庶務) 中村 雅典

12月1日土曜日に第32回昭和歯学会例会が昭和大学歯科病院第2臨床講堂で開催されました。今回は、特別講演1題、研究紹介講演1題と一般講演30題でした。特別講演は名古屋大学大学院医学系研究科教授の伴 信太郎先生による「医療者教育の現状と展望」、研究紹介講演は本学歯学部インプラント歯科学講座教授の尾関雅彦先生による「低侵襲インプラントの応用に関する臨床的研究」でした。

伴先生は総合診療科教授のお立場から、将来地域医療あるいは病院で働くためにも“総合する専門



医(ジェネラリスト)”の育成の重要性とその教育としての総合的知識と総合的判断力の育成の重要性とその実際についてご講演いただきました。

尾関先生はこれまでの先生の臨床経験をもとに、これからのインプラント歯科医療の方向性と重要性、とくにより患者さんへの侵襲の少ない治療法についてご講演いただきました。

一般口演は基礎・臨床講座からこれまでの研究・臨床実績についての発表が行われ、会場から多くの質問を受けて活発な討論が行われました。大学院生は、これまでの研究成果について発表を行い、これにも多くの質問や建設的な意見が出され、これからの論文作成に向けて非常に有益な示唆を得ることができたと思われま

行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 1月19日(土)、20日(日): センター入試
- 1月24日(木): 選抜Ⅰ期・センター利用Ⅰ期入試
- 1月29日(火): CBT
- 2月2日(土)、3日(日): 第106回歯科医師国家試験
- 2月16日(土): 歯学研究科Ⅱ期入試
- 2月17日(日): OSCE
- 2月24日(日): 選抜Ⅱ期・センター利用Ⅱ期・編入学Ⅱ期入試
- 2月27日(水): CBT 追・再試

編集後記

口腔生化学講座 宮本 洋一

12月号の発行が大幅に遅れ、新年を迎えてしまいました。編集担当者として猛反省しております。特に、年末のお忙しい中、原稿をお寄せ下さった皆様には、この場をお借りして心からお詫び申し上げます。

最後になりますが、平成25年が皆様にとりまして幸多い年になりますようお祈り申し上げます。